

夢メッセみやぎ講演会参加者による“ペンギンメソッド”の実践結果

一般財団法人みやぎ産業交流センターは、展示会・見本市の有用性を再確認していただき、展示会場「夢メッセみやぎ」をビジネスの場としてより有効に活用していただくことを目的に、毎年講演会を開催しています。令和4年度及び令和5年度は、展示会ブースに特化した「空間デザイン会社」SUPER PENGUIN 株式会社 代表取締役竹村 尚久氏を講師にお迎えしました。

令和4年度の講演会では、出展満足度を高める「展示会デザイン」5つのポイントと題し講演いただき、令和5年度の講演会では、【実演】最強の出展結果を出す「ロジカルなブースの作り方」～「来場者の心理」から考える「空間デザイン」とは？～と題し、実際にブースを作成のうえ講演いただきました。どちらも、講師が提唱する“ペンギンメソッド”をベースに、実際の展示会での動きやSDGsの視点を加えた工夫が凝らされたブースを披露されました。

講演会参加者からは、「すぐに試せそうな内容であることと、実際のブースを見ながら、というところが良かった。」、「ブースの配置だけでなく、待ち方・立ち方も学べた。」、「徹底的な入場者心理、入口対策が興味深かった。」、「事例が具体的で分かりやすい。」、「人を集めるブース作りのポイントについて理解することができた。」等の声をいただきました。

令和5年度夢メッセみやぎ講演会 実演いただいた“ペンギンメソッド”の詰まったブース



展示台の上

令和 5 年度の講演会に参加いただき、“ペンギンメソッド”を展示会出展時に活用された 株式会社みやちゅう
取締役営業本部長 島山正樹さんにお話を伺いました。

会社概要-----

株式会社みやちゅう

事業所:本社 宮城県仙台市若林区沖野 6 丁目 29-37
仙台空港工場・事務所 宮城県岩沼市空港南 5-3-4

設立:1977 年

資本金:10,000,000 円

事業内容:製造業(建築資材、園芸資材等)

従業員数:41 名

URL: <https://miya-chu.co.jp/>

受賞・認定:

令和 05 年 10 月 全国クラウド実践大賞北海道東北大会「優秀賞」「審査員特別賞」受賞

令和 05 年 10 月 仙台市地域企業デジタル化推進事業採択

令和 05 年 11 月 第 26 回七十七ニュービジネス助成金受賞

令和 05 年 12 月 全国クラウド実践大賞全国大会「ノーコード推進協会賞」受賞

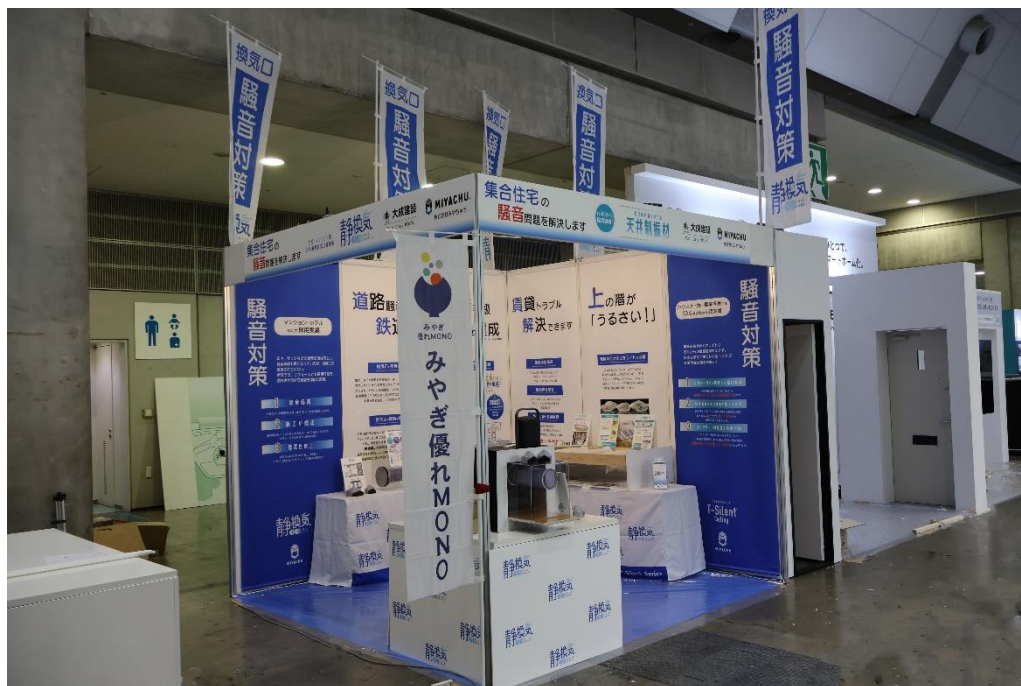
令和 06 年 1 月 第 16 回みやぎ優れ MONO 認定

等

令和 6 年 8 月 6 日～7 日に東京ビッグサイトで開催された「賃貸住宅フェア 2024」に出展しました。

出展の際は、宮城県内の優れた工業製品を認定し、県内外に発信するための認定制度「みやぎ優れ MONO」として、認定いただいた「天井制振材」の展示を行いました。

本製品は、集合住宅の「音の困りごと」の課題解決を目指し、宮城県産の無機系粒状体ゼオライトを、独自の区画構造袋と分割封入技術によって開発したものです。ありがたいことに、出展する前から様々なところから取材の依頼をいただき、記事にいただいたこと等もあり、ブースにはたくさんの来場者にお越しいただきました。



小間来場者:476 名
情報交換者数:83 名
商談数:8 件

ブース作成にあたり、参考にした“ペンギンメソッド”は、下記のポイントです。

- (1) 通路際の壁には、「何を扱っているか」を簡潔に掲示する。
- (2) 使い捨てとなりやすいパネルではなく、繰り返し使用可能なタペストリーを使う。
タペストリーのサイズをシステムパネルとほぼ同じにすることで、壁の凹凸をなくし、統一感や高級感を演出する。
- (3) 展示台の上にはオリジナルの棚を置き、取り出しやすい位置に収納スペースを設け、必要に応じて資料を出し入れできるようにする。また、展示台の装飾は、脱着可能なもので繰り返し使用可能なつくりとする。
- (4) 「滞留時間」をのばす。
- (5) 照明はLED 投光器を使い、部分的ではなくブース全体を明るく照らす。

まずは、(1)(2)を忠実に再現しました。通路際を活用するため、通路からの見え方を意識し、文字の位置、大きさなど細かく調整しました。色は、コーポレートカラーである青と白で統一しました。

タペストリーサイズは細かく指定しました。もちろん、タペストリーは別の展示会出展時も繰り返し使用しています。

(3)についても“ペンギンメソッド”を活かしています。

自社製品「天井制振材」は、天井裏の天井下地材の上に敷き詰めることで、天井から伝わる騒音を大幅に軽減することができる製品です。展示台の上に、天井下地材の模型を設置し、製品の展示を行いました。模型の下に隙間を設け、パンフレット等必要に応じて資料を出し入れできるようにしました。



(4)「滞留時間」をのばすため、通路際に製品の実演機を置き、実際に来場者に体験していただきました。



(5)についても、照明はLED投光器を使い、ブース全体を明るく照らしました。反省点としては、発注時にLED投光器の色の指定をしなかったことです。ブースには電球色が設置されていました。電球色の温かみのある色ではなく、昼光色のクリアな光のほうが、ブース全体のカラーにマッチするということをブースが出来上がってから気付いたため、次回以降の出展時は、LED投光器の色の指定まで行うことで改善をして参ります。

そのほか、弊社のモノづくりの強みを活かし、ブースのポールに設置可能な金具を作成し、旗の展示に使用しました。作成した金具には、旗竿に合わせて白の塗装を行うなど工夫を凝らしたため、隣接する出展社から購入方法を尋ねられ、自社で作成したことを伝えると驚かれ、改めて強みを認識する出来事でした。

弊社はこれまで、縁の下の力持ちとしての製品が多く、自社単体での出展経験は多くありませんでしたが、今回の“ペンギンメソッド”を活かすことで、設営コストを抑えながら、自社製品のPRを行うことができるブースを作成することができました。

株式会社みやちゆうを訪問させていただき感じたことは、お客様、開発を共に進めるパートナー企業、社員、地域に対し、「力になりたい」という経営者の強い思いです。

お客様のニーズの変化を捉えた結果、ブロック工事業からパッケージング業中心に業態を変え、業務用パッケージのみならず、個人の方でも使いやすい「小分け」パッケージ化することで、着実に販路を拡げてきました。

寄せられる課題に対し、「できない」ではなく、「これならできる」の対応を重ねた結果、開発を共に進めるパートナー企業の信頼を得て、「天井制振材」をはじめとした新商品の開発につながったと教えていただきました。

働き方改革とDXの観点から、ノーコードツールを利用したアプリでの業務のシステム化や効率化を実現されています。業務を紙媒体の管理から、アプリでの管理へ移行する過渡期は、社員から「煩わしい」という反応もあったそうです。しかし、勤怠管理はじめ機械管理等を遅滞やもれのない即時の共有が可能になることは、社員を守ることにつながると丁寧な説明を行い、全社員が一丸となってアプリを活用したことで、残業時間の大幅な圧縮や、機械の耐用年数延長につながったそうです。今ではDXモデル企業としても注目されています。

そのほか、「力になりたい」という思いは、障がい者雇用やインターンシップの受け入れにも表れています。

福祉的就労や生産活動の機会の提供を目的に、就労継続支援A型事業所及び就労継続支援B型事業所から10年以上にわたり施設外就労の受け入れを続けています。訪問時、就労に来ている方を見かけた際、いきいきと働いている様子、また信頼して受け入れている様子を感じました。

産学連携の強化プログラムとして、「学校では教えてくれない会社の選び方」と題した出張講座を県内の公立高校にて開催しているほか、インターンシップでは、「こなすインターンシップ」ではなく「役立つインターンシップ」を目指し、実践的な内容で受け入れを行っています。まず、学生に対し材料の特性等の説明を行ったあと、複数の学生でチームを組み、材料を活かした商品開発会議を行い、「どんな商品にすればニーズがあるか」、「販売金額」、「商品名」、「パッケージ」まで細かく設定し、なんと、翌朝に商品を形にして学生に渡し、自社ECサイトで期間限定で販売したこともあるそうです。商品開発のほか、業務改善に向けたアプリを作成する体験にも取り組むなど、インターンシップを通じ、社会で働くことの意味、やりがい等を伝え続ける「役立つインターンシップ」によって、就職試験応募者が急増するという効果があったことも教えていただきました。

株式会社みやちゆうは、「力になりたい」という強い思いと、モノづくりへの情熱によって、人や企業とつながり、変化を起こし、進化を続けています。



一般財団法人みやぎ産業交流センター

〒983-0001 宮城県仙台市宮城野区港3丁目1-7

TEL022-254-7111 FAX022-254-7111

URL <https://www.yumemesse.or.jp>